

2010年第11回大学対抗ゴルフコンペルール(2010.5.23-24)

1. 18ホールストロークプレイ
2. 男性はホワイトティー、女性はレディースティー使用。
3. スルーザグリーンノータッチ（所謂「6インチリブレイス」不可）、ホールアウト（OKボールなし）。
4. パーの3倍を打ったところで自動的にギブアップ。
5. ロストボールの可能性のある場合は必ず暫定球を打って下さい。
6. その他JGA規則(<http://www.jga.or.jp/jga/jsp/index.html>)及びローカルルールに従う。

<ローカルルール>

- ・OBとは白杭で結ばれた線の外側をいう。
- ・修理地とは、白線又は青杭で示された場所をいう。
- ・バンカーはハザードとする。
- ・ラテラルウォーターハザードは赤杭で示されており、「動かせない障害物」として取り扱う。
- ・2番及び16番ホールのティーショットが池に入った場合はドロッピングゾーンにボールをドロップして第3打目を打つことができる。（プレーではなく、肩の高さからドロップ）
*青浦の2番、16番等のグリーン周辺には赤杭はないが、すべて池の境の石垣に赤杭があると想定して、ラテラルウォーターハザード扱いとする。
- ・舗装されていない道及び小道については、全て「動かせない障害物」として取り扱う。

<その他のルール>

- ・グリーンまでの距離を示す植木は「動かせない障害物」とし、無罰で救済を受けることができる。

<注意が必要なJGA規則>

1. クラブ（規則4）・球（規則5）：使用するクラブや球はゴルフ規則（規則付属Ⅱ・Ⅲ）に適合したものでなければならない。いわゆる「高反発ドライバー」は使用不可。
2. 修理地の扱い（規則25） = 無罰
ドロップ地点：ホールに近づかないニヤレスト・ポイントから1クラブ（使用するクラブ）以内にドロップ。
その際、ボールは拭ける。
3. ラテラル・ウォーター・ハザード（赤杭）（池ポチャ等）の扱い（規則26） = 1打罰（但し、選択肢5は無罰）
ホールに近づかずに下記の5つの選択肢から選択。
 - 1) 境界線を最後に横切った地点から、2クラブ（最も長いクラブ）以内にドロップするか
 - 2) その池の対岸でホールから同距離の地点の2クラブ以内にドロップするか
 - 3) 横切った地点とホールが直線で結べる場合にはその後方延長線上にドロップするか
 - 4) 元の打球地点にドロップするか（打ち直し） *ティーショットの場合はティアップ可。
 - 5) 池の中を含むウォーター・ハザード内のボールを打つか（但し、クラブを地面（水面）にソールできない）
4. ロストボール（紛失球）の扱い（規則27） = 1打罰
明らかに池に落ちたことを確認できた場合等を除き、ボールが見つからない場合は規則のロストボールの扱いとする。即ち、OBと同じく、打ち直しとする。（暫定球推奨）
5. アンプレアブルの球の扱い（規則28） = 1打罰
球がウォーターハザードにある場合を除き、コース上のどこでもアンプレアブル宣言可。
下記の3つの選択肢から選択。
 - 1) 元の打球地点にドロップするか（打ち直し） *ティーショットの場合はティアップ可。
 - 2) 球があった箇所とホールが直線で結べる場合にはその後方延長線上にドロップするか
 - 3) 球があった箇所からホールに近づかない2クラブ（最も長いクラブ）以内にドロップするか（打てる所からではない）

<その他の注意事項>

- ・受付にエントリー済であってもスタート時間10分前にティーグラウンドに不在の競技者は失格とする。
- ・本年度大会においては、スロープレー撲滅をテーマとします。前の組との間隔を空けないこと、自分のプレーの順番になったらすぐにプレーできるように準備しておくこと、各ホール間の移動を速やかにすること、紛失球の恐れがある場合は暫定球を打つこと等により、すみやかなラウンドを目指してください。（JGAゴルフ規則第1章（エチケット）「プレーのペース」参照）

- ・ルールに関して不明の点はスタート前にスターターに確認の上、組幹事を中心に同伴競技者でまずはお判断願います。（前後の組からのクレームは受け付けません）
 - *キャディにはルールは伝えておらず、キャディの判断は必ずしも正しくありません。
- ・プレー中にルールが不明の状況が発生した場合、複数の球を使用してプレーを続行し、ラウンド終了後スコアカード提出前に幹事団に確認して下さい。

以上